

生物と人との新しい関係・共生を目指す バイオセラピー研究の最前線

特集 3

動植物はこれまで人間の食料資源として位置づけられ、農業生産を科学的に支える農学の発展を生み出してきた。しかし、食料生産だけでなく、人間の生活や心身の健康との関わりで、動植物と人間との新しい関係が注目されている。特にめまぐるしく変化する現代社会では、植物や動物を育てる、世話をするという行為が人間の心身を癒し、健康の回復に有効であるという考え方が広く受け入れられるようになってきている。また、園芸療法、動物介在療法も市民権を得てきている。しかし、生活と密着した農学に対する一般の人々の理解は必ずしも高くなく、農学研究者の間でさえ、その重要性に対する理解が十分得られているとはいえない。本特集では、生物と人間との新しい関係・共生を目指すバイオセラピー研究の最前線で活躍している研究者の方々に登場してもらい、バイオセラピー研究にける夢を語っていただいた。



● 苦難の研究の中から到達した社会園芸の理念とは
東京農業大学農学部 松尾英輔 教授

● 生きることを躊躇^{ちゅうちよ}している人に
「“生きよう”という心の扉」を開かせてあげたい
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 浅野房世 教授

● 社会園芸:人を知り,社会を知り,そして植物を極める
東京農業大学農学部 宮田正信 講師

● 馬の特性を活かして
障害のある人々の指導に挑戦する
(独)国立特殊教育総合研究所 滝坂信一 総括主任研究員



● セラピューティック・ライディングを
獣医師として研究・普及したい
東京大学大学院農学生命科学研究科 川嶋 舟 研究員

● イヌの気質を遺伝子解析と実態調査で総合的に解明
東京大学大学院農学生命科学研究科 増田宏司 研究員

● 野生動物の嘆きを人間に伝える活動を世界で展開
東京農業大学農学部 安藤元一 助教授

● 多くの動植物を次世代に残すのが私の使命です
(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 大石孝雄 研究リーダー

● バイオセラピー学科:
動物・植物と人間との新たな関係と
人間性豊かな人材の育成を目指す
東京農業大学農学部 天野 卓 学部長

